

第4回置賜定住自立圏共生ビジョン懇談会 会議録

【日時及び場所】

日 時 平成30年12月18日（火）14時～15時30分

場 所 置賜総合文化センター 203 研修室

【出席者】

委 員 尾形健明委員、水野由利子委員、清野雅好委員、亀岡淑子委員、
我妻行芳委員、小川正昭委員、松田圭悟委員、佐藤みさ子委員、
遠藤央子委員、勝見英一朗委員、鈴木和他委員、藤倉利英委員、
高橋和衛委員、守屋由美委員、米野斉巳委員（柴田正孝委員、
宮原博通委員 欠席）

オブザーバー

置賜総合支庁総務課連携支援室長、長井市総合政策課総合戦略主幹、
南陽市みらい戦略課長補佐、高畠町企画財政課長、
川西町未来づくり課政策調整主査、小国町総務企画課政策企画担当係長、
白鷹町企画政策課長、飯豊町総務企画課総合政策室長

事務局 米沢市企画調整部総合政策課長、総合政策課長補佐、
総合政策課企画調整主査、総合政策課主任、
置賜広域行政事務組合総務課広域連携主幹、総務課長補佐、
総務課企画財政係長

【次第】

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 議事 置賜定住自立圏共生ビジョン（案）について
 - （1）委員意見への対応について 資料1
 - （2）共生ビジョンについて
 - ①変更内容について 資料2
 - ②圏域の将来像について 資料3
 - （3）今後のスケジュールについて 資料4
 - （4）意見交換
- 4 その他
- 5 閉会

【議事録（要点筆記）】

会長あいさつ

本日は第4回目の懇談会となるが、これまで皆様方のお力をお借りして原案がまとまりつつある。本日が最後となるため、皆様からたくさん御意見を頂きたい。

この懇談会は来年も引き続き継続することから、3市5町がこの案のとおり実行しているかどうかを懇談会として検証したり監督する責任があるため、そのようなことを踏まえながら協議いただきたい。

3 議事

(1) 委員意見への対応について

事務局 **資料1**に基づき説明。

会 長 今回の説明に対して何か質問等があればいただきたい。

—意見なし—

(2) 共生ビジョンについて

① 変更内容について

② 圏域の将来像について

事務局 **資料2**、**資料3**に基づき説明。

会 長 事務局より説明があったが、委員の皆様方からのご意見に基づいて訂正されている部分について間違いがないか確認いただきたい。併せて、圏域の将来像として事務局案が出ているので、ご意見をいただきたい。

委 員 **資料2**P31「再生可能エネルギーの利用促進」で、平成32年度の事業費見込が突出しているのは理由があるのか。

事務局 飯豊町の利用推進計画に基づくプロジェクトが実際に行われるのが平成32年度であるため、事業費が突出している。

委 員 外国人旅行者については、飯豊町でもインバウンド事業として実施しているところである。**資料2**P43「広域観光の推進」で、置賜地域外国人旅行者数について、基準年度の平成29年度が11,462人で目標年度の平成35年度が6万人となっている。5～6年の間に5～6倍の目標値になっている。このような目標値達成に向けて、特別な事業を実施したり外国に営業所を設けて積極的な営業をする等、どのような事業を想定して6万人の数値が出てきたのかについて教えていただきたい。

事務局 目標値については、具体的な事業というよりは県の目標値に合わせており、年間で30%の増加率を設定したもの。置賜地域としても県の目標値に合わせて同じように施策を進めていくことによって、同じように増やしていきたいということでこのような目標値とした。

担当課（観光課） 確かに目標値の6万人は現状値から見れば相当かけ離れた数字かと思う。先ほど事務局から説明あったとおり、県の目標に従って純粋に倍々ゲームのような形で伸ばしていくと6万人という形にはなる。県でもインバウンドに力を入れており、台湾からのチャーター便を春まで144便運航することになっている。搭乗率も90%と大変好評だということで引き続き春からも運行する予定だと聞いている。この効果については、今は村山や庄内が大きいですが、この効果を置賜まで繋げてほしいという話はしている。また、最近、体験型の旅行が外国人旅

行者の方には大変好評で、特に農村民泊が好評となっている。置賜圏域では飯豊町が先進地として取り組んでいて、米沢市でも関地区を中心に取り組んでいるところである。こちらでも年々、倍々で受入れ申込みがあるのでそういった形をPRしながら、また、道の駅米沢の観光案内所を中心とした3市5町の新たな取組等を来年度以降提案しながら、目標に向けて取り組んで参りたいと考えている。

会 長 圏域の将来像のキャッチフレーズはこれでよろしいか。

委 員 今回まとめている共生ビジョンは、圏域に住む方々にお知らせするのか、あるいは圏域外の方々にもお知らせするのか、こういったイメージなのか。それによって置賜の漢字が読めるのかと思うし、圏域内でも「おきたま」「おいたま」と読む方もいるので、対外的にお示しするのであればルビを振ってはどうか。

事務局 主には圏域内となるが、HPに掲載して圏域外の方にもご覧いただく機会があると思うので、ルビを振って分かりやすくしたい。

会 長 3市5町のHP、また、総務省のHPにも全国の事例が掲載されるが、そこにキャッチフレーズが掲載されるのか。

事務局 概要版を作成して掲載する形になるので、ルビを振った方が分かりやすい。

会 長 それでは「つながる置賜」の読み方は「おきたま」で良いか、「おいたま」の方が良いか。

委 員 おそらく「おきたま」も「おいたま」も正しいと思う。「ざおうさん」と呼ぶのか「ざおうざん」と呼ぶのかと同じ話になるので、あえてルビがなくても良いのではないかとも思う。ただ、他圏域の方々からすると呼び方が分からないということがあるとすれば、公約数的には「おきたま」なのかと思う。

「つながる置賜 ともに明るい未来へ」について、いわゆる語呂的には「明るい」は無くても良いのではないかと思う。「明るい」であったり「優しい」とか「豊かな」とか色々な意味合いがあって良いと思うし、わざわざ誰も暗い置賜を目指す話ではないので、無くても色々な力強い未来とか明るい未来等のイメージを、それぞれが持ってくればそれで良いのかなと思う。

会 長 只今のご意見に対してほかに意見は。

私は目的があった方が良いのかなと思っている。やはり、暗いというのは誰も望むわけではないのだが、もう一つそこに欲しいなと思ったので、私としては事務局案に賛成している。

皆様から反対意見はないか。

ー反対意見なしー

それでは事務局案を採用とする。

次に資料2 P 11の文章表現で何かお気づきの点はないか。

委 員 先ほどご説明のあった具体的な取組の中で、「福祉・健康の充実」に3項目ほどある。私は民生委員の立場でこの場に参加しており、担当する地区の中に一人暮らしや夫婦世帯の高齢者が多数住んでいる。民生委員は、そのような方々への見守り・声がけ・訪問を実施しており、生の声を聞くと、「高齢により年金で生活できない」「借金がなくて生活が苦しい」「夫婦二人でも収入が少なくて生活が本当に苦しい」「一日の食費をおよそ300円で賄っている」等々、本当に切実な話を聞く。そういった方々が普通に日常生活を営んでいる中で、何かもう少し手立てができるような施策があれば住民が安心して生活できる環境になるのではと思っている。キャッチフレーズ等では「良い米沢」「住み慣れた場所で 住

み慣れた家で 住み慣れたところで いつまでも」などによく聞くけれども、そういった気持ちで生活できるのではないと思う。

ぜひ、「福祉・健康の充実」の事業に心温まる施策を検討していただきたい。

事務局 福祉・健康のWGでは、まだそこまで十分に話し切れてなかった部分もあるが、これからもWGは続けていくので、その中で只今ご意見があった介護やそういった部分に対しても十分に考慮して検討させていただきたい。

また、来年度には見直しのご説明もするが、その中で追加していくことも可能なので、ぜひ検討していきたい。

(3) 今後のスケジュールについて

事務局 資料4に基づき説明。

会 長 今回の説明に対して何か質問等は。

—意見なし—

会 長 今後委員会は開催されないので、後で何か気が付いた点は事務局に届けばよろしいか。

事務局 1月の幹事会前の1月中旬までであれば調整可能なので、お気づきの点があればご意見をお寄せいただきたい。

(4) 意見交換

会 長 本日までの4回の懇談会を踏まえて、感想や次年度以降に期待したいこと等について意見をいただきたい。

委 員 この懇談会に参加するにあたり、非常に失礼ながら私の先入観で自治体はもっと頭が固いイメージがあったが、今回の懇談会では様々な意見に対して事務局が柔軟に取り入れて新しい項目を追加する等、素晴らしい対応というのが率直な感想である。私は観光分野のため対外的にPRする部分での地元しか見てこなかったのが、福祉的な問題や米沢牛生産者の方々に様々な事情があることを新しく学ばせていただいた。そういった問題を踏まえて来年4月から事業を実際に開始すると、新しい課題や予想しない問題が出てくることもあると思うが、今回のような形で意見をすぐ取り入れて対策に盛り込んでいくことで個々に対応していけるポテンシャルはある。何よりもこれは置賜圏域に住む住民のための事業であるため、これからは住民や有識者の方の声を柔軟かつ迅速に集めて受け止めていただき、キャッチフレーズである「つながる置賜 ともに明るい未来へ」のとおり明るい未来が実現していくということを願っている。4月以降も進捗を見届けていきたい。

委 員 私は消防・防災の立場で参加させていただいているが、観光や福祉等の私が全然考えていない部分を皆さんの意見で色々聞かせていただいた。米沢に何十年も住んでいるが、そういった詳細な事柄までは分からないので本当に良い機会を得たと思っている。消防・防災の部分については、今後、もっと検討いただきたい。

委員 個人的には非常に素晴らしいビジョンができたと思っていて、特にこれに関してコメントはないが、ビジョンがあるならミッションはあるべき。取組として記載はあるがそこがミッションにはなっていないので、ビジョンとは別で良いが将来的にそういうところが分かる形になっているべき。取組に関しては割と縦割りで作られてしまっており、現状しかたがないことだとは理解しているが、関連するところは色々あるため縦割りベースでなく横串を通すような形で、今後の将来像として一つ見える形になっていくと圏域として良い形になっていくのではないかな。

会長 前回の懇談会で話題とした、米沢市の助成を受けて行った研究成果については大学工学部には残っていたか。

委員 話としては現在も継続しており、どのような形で社会に実装していくのかという課題があるため、議論は継続したいとのことだった。

会長 せっかく米沢市が助成しているので、それを活かしていただければと思う。

委員 前回の懇談会で、定住自立圏の事業予算がどこで見えてくるのかという話をした。私の整理の仕方が悪いのかもしれないが、共生ビジョンを作り上げて議会承認を得る形のプロセスになるのかと思っていた。総額にすれば今回は約92億になっているが、既存事業の予算もあるしこれから行政が予定している予算等をプラスすれば、共生ビジョンとしてこの程度の予算が必要ということだろうと思う。中身としては大変良い意見の中で作り上げられており、これらを具体的に今回の予算だけで実施するのは難しいということになってくると思うので、どの段階でそれが明確になってくるのか。先ほどミッションの話題もあったが、そういったスケジュール感を持った流れが全体的に理解できない状況なので、説明をお願いしたい。

事務局 前回も、委員から国からの財政支援措置がもっと見えるようにとのご意見をいただいております、圏域として取り組むと各市町1,500万円、米沢市8,500万円程度を上限とする特別交付税が措置される。新しい事業にだけ充当できればという考えもあるが、圏域が良くなるには既存の取組も必要なため、既存事業にも充当していくことも必要だと思っている。「こういったものに力を入れていく」というのがなかなか見えないとご意見もあったが、まずは「米沢牛の振興」と「広域観光」については特徴ある取組としてしっかり実施していきたいと事務局では考えている。

委員 果たしてどのくらい役に立てたのかと非常に忸怩たる思いがあるが、懇談会に参加して周りを見る目が変わったかなと思っている。資料を見ると5年間で分配されている事業費は米沢牛が一番であった。つまりは、米沢牛は今までも置賜各地でかかわってきているということで、それぞれの3市5町の方たちに今回の共生ビジョンの中でも一番成果が見えるものになるのかなと思った。私たちはそれぞれの立場から出ているため個別事情があるが、置賜全体を考えた時には「なるほどそういうことか」という考えを持つことができ、それで繋がっていくとすれば非常に良いことである。

話題は変わるが、南原に住んでいる知人から聞いた話を紹介したい。
「車の免許を返納したが、三友堂病院に行くのに白布線のバスで市内に出てくるのは良いが、そこから病院に行くまでの乗り継ぎに1時間以上待っていないければバスが来ない。これは免許返納をちょっと早まったなと思った。もう少し交通の便が良くなればいい。」との話を聞いた。**資料2**P35に記載のとおり、交通取組事業については5年間の事業費で2番目に多く計上されており、路線バス等の運行維持には「圏域内の交通手段が確保されることにより圏域住民の利便性の確保が期待される」と期待される効果が記載されている。まさに、そういった点で住民が身に染みて変わってきたと思えるところがあれば良いのではないかと感じている。

また、先日の新聞で、米沢市の企業人と高校生が企業の内容を見学する機会があったとの記事を読んだ。それに参加した高校生の感想として、地元の企業で他に誇れるような先端技術を持っているところがあるということに改めて感じたとのこと。地元の企業の良さを再認識したことで、地元への見る目が変わるということに繋がり、これから子どもたちが残っていく地元で頑張ってみようかなとなれば、地元への定住にもつながっていくと思った。

それから、大学の素晴らしい業績なども置賜一円で十分に効果のあるものにしていただけると若い人たちの定住に結びついていくと思うので、これからそんな取組も含めて明るい未来へ行っていきたい。

委員 大変わかりやすい取組が掲載されていると思い拝見させていただいた。私は社会福祉協議会で仕事をしている関係で山形県内外の社協と話をする機会が多いが、米沢市と聞いて皆さんイメージするのが「学園都市で大学が多いから色々な若者と様々なことができるから良いですね。」とか「米沢牛を毎日のように食べられるから良いですね。」と言われる。「地元でも高額なのでそんなに食べられないんですよ。」等と話してきたが、共生ビジョンで米沢牛の生産のあり方など色々な分野に触れることができたので、今度そのような場面があった時にはもう少し詳しく説明できるのかなと感じた。

キャッチフレーズについて、「つながる」と「明るい」のキーワードが好きで、我々の業務でも取り入れているところなので、これからの置賜、つながった取組ということを期待している。

委員 住んでいる人たちが「地元置賜は良い」と思えるような、まちづくりが出来れば良いと思う。それにはやはり生活基盤が必要であり、安心して生活できる手立てが大事なので、そこをこれから考えていかなければならないのではないと思う。

子どもの貧困率が六、七人に一人などと言われており、子ども食堂を何とか立ち上げたいと考えているところだが、確かに困っている家庭があるけれど「うちはいいです、うちはいいです。」と言って、子どもを集めるのにすごく苦勞している。昨年度は、自分の孫やスタッフの孫を集めて子

ども食堂を一年間手伝わせていただいたが、一年限りの事業だったので、今年は関わった人たちで何とか立ち上げ、1月から3月の間でとにかく1回やってみようという段階にある。子どもたちを集めることが出来るだろうかということで、今、頭を悩ませている。行政に聞いてもなかなか難しい課題でもあるため悩んでおり、お金もないが、人集めのところで非常に悩んでいる。できれば、貧困に該当するような子どもたちに来てほしく、なんとか1回実現しようと取り組んでいる。

委員 1年間たいへんお世話になり、また、事務局には毎回膨大な資料を揃えていただき、本当にまとまっているなと感心している。懇談会のメンバーの方々は、色々な立場や役職から代表して集まってきているので、その中において各市町の問題や課題を聞き、たいへん勉強になった。置賜はひとつだと当初よりお話ししているわけだが、共存共栄を図るには、3市5町が完璧な満足とまではいかないまでも、譲歩しながらそしてほぼ良かったなという方向に行かなければならない。

4回の懇談会において、米沢牛の振興や広域観光などがだいたいまとまったのかなと思っており、このあたりを主に3市5町共通の課題として考えを共有しながら連携して事業が行えるようにお願いしたい。

期待することに関しては、定住自立圏構想というのは色々目的はあるが、やはり一言でいえば人口減少対策なのではないかと思っている。それを打開して素晴らしい置賜を構築するには、なんといっても魅力あるまちづくりであり、魅力がなければなにも始まらないので、魅力という言葉がキーポイントでないかと思っている。魅力があれば定住人口の増や交流人口の増など、すべてプラスに繋がるので、次年度についても魅力ある活発な議論を皆様と一緒に私も頑張るのでよろしくお願いしたい。

また、圏域の将来像については、4回をとおして検討してきたので、最後に「つながる置賜 ともに明るい未来へ」という、良いキャッチフレーズにまとまったなと思っている。前に申し上げたとおりのキャッチフレーズとは、とにかくインパクトがあり簡単明瞭でイメージ的に分かりやすくあるべきと思っている。そして、相手に与える印象が非常に強くなければキャッチフレーズではないと思っているので、そういう意味で事務局案の「つながる置賜 ともに明るい未来へ」は非常に良い文言に決まったなと喜んでいる。

委員 懇談会に参加させていただいて、役に立てたのかという思いと、私は白鷹町の推薦により参加させていただいているので、町の役にたったのだろうかというところで自問自答している。話の中身に関しては多岐にわたっていて、自分の経験したことではないとどうしても意見を求められても分からない部分があるが、今まで関わらなかった分野の米沢牛や福祉の事を知ることが出来たので自分としてはすごく意味があったと思っている。

これから少子高齢化や人口減少という危機が迫っているけれども、そういった中で単独の市町よりは広域でつながるといえるのはとても大事になってくると思うので、今回話し合ったことが具体的に春からでも目に見えるようになれば良いと思う。

委員 このような大きな計画を作るにはエネルギーを費やしたと思うし、本当に良いビジョンができたと思う。これはあくまでも計画であって、これからが将来像に向けた実践で、この実現に向けては行政だけで取り組む話ではないし、民間の方々やボランティアの方々など色々な人たちの力を借りながら取り組む必要があり、本当にエネルギーを使うところであろうと思う。

この計画を作るにあたって、その都度議事録をすぐに送付いただいたことにより、その場の雰囲気や話を聞いたことを思い出したり、それがまた次の懇談会の協議に反映されるという本当に良い運営をしてくれたと思っている。

先日、町長と話をする機会があり、ふるさと納税の返礼品で圧倒的に多いのが米沢牛だが、肝心の米沢牛がなかなか確保できないのでもっともっと生産しなければならず、小国町でも生産しなければならないし、置賜全体でもっともっと米沢牛を生産する必要があると言っていた。やはり、畜産農家だけが関心を持つのではなく、置賜の皆に関心を持っていただいて応援をしていただければありがたい。

委員 参加させていただき大変勉強になった。これからも勉強しながらこの次に臨みたいと思っている。意見を行政側で吸い上げて次の会議に反映させてビジョンを作成するという運営方法で非常に良かったと思っているし、第1回目にしてはすごいものができたと思っている。ただ、私が当初勘違いして、このように皆さんが委員として集まっているので、皆で話し合った結果を行政にバックするものと思っていたことが申し訳なかったと反省している。

私たちは住民代表としてここに出ていると思っている。ということは、他の委員からも発言があったとおり、本当に住民が困っているところや住民しか分からない、行政が分からない部分を話すべきだと私は思っている。その中でちょっとした気づきがあって、さらにその気づきの中で他の圏域では無い計画ができると思っている。他の圏域では考えられない、置賜圏域でしか考えられないことをぜひこれからも探っていきたい。

委員 共生ビジョンでは観光を重点項目として取り上げていただき、お礼申し上げます。置賜地域の課題について改めて包括的に認識させていただいたと思う。

5年前の平成25年時点に課題を考えていたものが少し甘かったのか、平成30年になった今、非常に厳しい形で答えが出ている状況にある。平成35年には我々がここで検討したこと、生活に密着した部分がもっと露骨に課題として出てくるのではないかと感じている。それを踏まえて、置賜圏域の将来像として「自治体間の連携に加えて、圏域内の関係団体・事業者・住民等の協働の推進によるさらなる相乗効果が期待され

る」ことについて、具体的に我々民間の団体としてこういったものに触発されながら、実際の事業に取り組んでいけるようなきっかけとなると感じている。なおかつ、それが今後5年間の中でより強調されるような、いわゆる民間との連携をもっと増殖できるような形の動きになれば良い。

委員 置賜圏域全体が連携してどう発展していくか、どう住みやすくしていくかということと同じ場で話ができる機会を作られたことは大変貴重だったと思っている。今後5年間の中で、この懇談会のような圏域全体の発展と一緒に考えられるような仕組みを次にどうつなげていくのか、それをぜひ考えていただきたいと思う。例えば、若手や中堅によるプロジェクトチームを一つでも二つでも作るというのは、次の世代に繋がるような仕組みづくりということで申し上げたつもりだが、ぜひ、これを土台にして次につながるようにしていただきたいと思う。

この圏域で広域連携を考えると、広域ということが効果を生むのは一つは観光分野であるし、もう一つは商工業の振興であると思う。例えば、広域観光であれば入口は米沢の道の駅になると思うが、道の駅の中に他市町のライブカメラ映像や今行われている催し物の動画などがスクリーンで映し出されていれば、そこに来て見た人が他市町まで行ってみようかなとなると思う。そういった広域の良さを観光分野で活かしていただきたい。

また、特にこれからの課題になるだろうと思っているのは、外国人労働者の雇用のことである。各事業所が外国人労働者を雇用しようと思っても、日本語教育や病気やけがをした時の対応などのことを考えるとなかなか一事業所としては踏み出せない実態があるので、ぜひ、置賜全域でそれらを相談する以上のところを期待するのだが、なにか機関としてできてくれれば置賜全体のこれから必要となる労働力の確保になると思っており、そのような課題については是非今後取り組んでいただきたい。

委員 単独市町の計画策定でも大変なのに、3市5町をまとめ立派なビジョンが出来たのではないかとと思っている。その中で3点ほど質問させていただきたい。

一つ目は人口減少について、どの市町でも積極的に人口を増やすための事業が分散化されており、見えにくいと思っている。ここには移住定住しか記載していないが、例えば、子どもたちの遊具施設を作るとか住み良いまちをつくるとか子どもを増やす努力だったり、そのような人口を増やすような3市5町の事業がなにかないものか。

二つ目は資料の中の質問になる。①別冊P7の地域連携DMOの事業費が3億円ほどになるが、どのようなところに事業予算を使うのか分からないので教えていただきたい。②P8で再生可能エネルギーが追加されているが米沢市だけが0円になっている。米沢市では取り組まないのか。③地域おこし協力隊はそれぞれの市町で完結しているような気がするが、ビジョン案に交流や連携を図るための事業が記載されているが、そういった取

組が行われているのかどうか。「ヨソモノ目線」というのはこの委員の皆さんと同じように色々な気づきがあるのではないかと思うので、そういった連携することによってまた新たな視点も出てくるのではないか。

三つ目はふるさと納税返礼品の米沢牛について、新庄にも米沢牛の返礼品があるようだがこれは問題ないのか。

事務局 一つ目の人口を増やす取組について、確かに人口減少というのは国の問題でもあるが、人口減少社会というのは受け入れざるを得ないような状況にあるため、直接人口を増やす取組にはならなくても地域として必要な機能を確保することが必要だと考えている。それが人をとどまらせることにつながっていくという思いで、連携できる項目をビジョンとして取りまとめたもの。

二つ目について、①DMOについては長井市の観光局中心の取組になるため調べてからご連絡する。②再生可能エネルギー関係について、ペレットストーブや太陽光発電に対する補助など、米沢市が直接取り組むというものはない。ただ市内には、民間で例えばバイオマス発電所が出来ており、そういった取組について支援できるものであれば今後支援していきたいという思いもある。③協力隊の連携については、地域の中で懇談する場はある。

三つ目のふるさと納税関係の米沢牛について、こういった取り扱いがなされているか分からないため、新庄市に確認する。

会 長 委員の方々から人口減少という話が出てきていたが、これは避けられない課題であり、置賜圏域だけで人口を増やそうというのも多分無理であろう。ただ、その中で例えば生産性を上げるために各企業のものづくり産業をもっと現状維持を図ろうとするとICT技術が重要視され、AI（人工知能）、IoT（モノのインターネット）などが大事になってくる。山形県立産業技術短期大学校ではまさにそこがテーマになっており、いかに民間レベルまで落とせるかということで、最先端の研究を卒業研究発表で取り組んでいる。産業短大からは、そのような人材120名のうち100名が県内に就職するため、まさに山形県の人材供給源になっている。日本マイクロソフトでICT関係のコンクールがあり、予備審査を通った8チームの中に産業短大から3チームが予備審査を通過してそのうちの1チームが優勝した。素晴らしいシステムを作ったことが全国でも非常に高い評価を受けた。そのようなことで、人口減少にはやはりAI・IoT・ICT等の技術が絶対必要ではないかということで、実践技術者の養成を頑張っている。

今回、立派な共生ビジョン案ができた。計画ができたことで安心してしまっているのが実行できていない、そういったことが多々見受けられることがある。今回、皆さんで議論してできた共生ビジョン案であるため、とにかくひとつひとつしっかり実行していただきたい。委員の方々にはチェックしなければならない重要な責任があるので、来年度もどうぞよろしくお願いしたい。

4 その他 (特になし)

5 閉 会

事務局 以上をもって、全4回の懇談会が終了となる。今後のスケジュールについては、3市5町市町長に確認いただき、その後に各市町議会に説明し、並行してパブリックコメントを行い、修正して最終版の完成となる。最終版については冊子をお送りするので確認をお願いする予定。

4か月間にわたり、御協議いただき深く感謝申し上げます。来年度以降、事業を実施していく中での見直しを行うので、引き続き御協力をお願いしたい。

以上で、第4回懇談会を終了する。